

5月末に白馬スノーハープで開催された大北地区森林祭に参加する。次代を担う大北管内の、みどりの少年団と地域の皆さんのが協働

フリーード風 (現場)からの風

宮田守男



して広葉樹等の苗木植栽が目的だ。当日は、時折、小雨。子供達を心配する気象だったが、開式の行事には青空も垣間見えて一安心。しかし、気象予報は雨。少しでも、子供達に楽しい思い出を持って、緑化や森林づくりの大切さを、開式行事の早めの進行を期待するが、台本通りの進め方に、「違うだろ」との思いを抱いてしまう。

多くの行事は、主催者・複数の地元自治体の長・来賓の議員・そしてゲスト関係の皆さんが続く。果たして話を内容を覚えている人

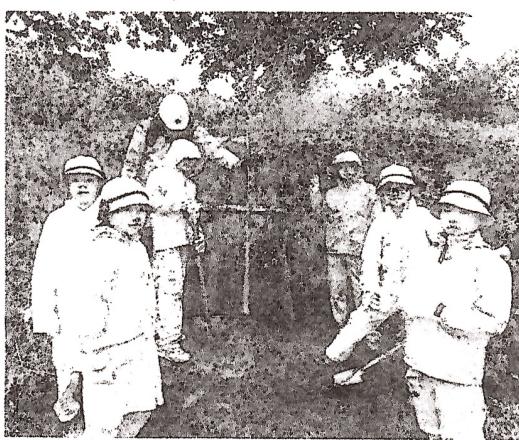
がどれだけいるのだろうか。参加者の多くは子供達だ。事業を実施するためには、多くの関係者の協力や支援、そして事業を裏付ける予算確保は、事務方にとつて必要なかもしないが、配布資料に

馬村領方地籍で開催された、長野県植樹祭での国會議員の若林正俊さんとの会話を思い出す。若林さんは、環境大臣や農林水産大臣の要職を務められた政治家だ。白馬村役場在職中に、国議員会館内

ある。領方会場でも、木陰のベンチから「久し振り」と声を掛けて頂いた。「かしこまつた開式行事は苦手、主人役は地域の皆さん」の言葉は強い思い出となっている。

作業は、「八坂みどりの少年団」とホタル生園地周辺の植栽。ホタルへの影響を最小限にと、内山の長澤弘さんが同行し、説明していた。植栽は、「カツラ」内山集落の大木が有名な樹木だ。ホタルの嫌いな、明かりや、ライトから守る為にカツラの植栽だ。

（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上）



八坂みどり少年団のメンバー、将来の植栽した樹木の重ねた年数の物語を聞く場面が楽しんだ

カツラは、高さ30メートル、直径2メートルになり、葉はハート型に似た円形が特徴的で、中国の伝説では、「桂」は「月の月中にあるような高い理想」を表す大木だ。この樹木が育ち、森の中に住むホタルが守られる、毎年行われる「内山のホタル観賞会」がことしは、6月28日からだ。みんなで観察に出掛けませんか。（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上）

植樹祭の一一番大切な事は、植栽後の管理を担う地元の意識だ

（団）ホタル生園地周辺の植栽。

（メッセージで済ます）など、考えてほしいと思った人は多いはずだ。予想通り作業後半には、降雨に見舞われ、午後の森林教室は中止になってしまった。た若林先生から「久しぶり、白馬頑張っていいよ」と声を掛けて頂き、同席していた国の関係部課長との関係を築いていたいた事が

カツラは、高さ30メートル、直径2メートルになり、葉はハート型に似た円形が特徴的で、中国の伝説では、「桂」は「月の月中にあるような高い理想」を表す大木だ。この樹木が育ち、森の中に住むホタルが守られる、毎年行われる「内山のホタル観賞会」がことしは、6月28日からだ。みんなで観察に出掛けませんか。（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上）